

高度実践看護師教育課程で学ぶ大学院生の  
臨床判断力の向上を支援するためのがん看護学シミュレーション教育の試案  
—事前・事後学修用シナリオ型 e-Learning 教材の作成—

樺澤 三奈子\*<sup>1)</sup>、小野田 弓恵<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 聖隷クリストファー大学、<sup>2)</sup> 浜松医療センター

**【背景と目的】** 近年、がん診断技術・治療の高度化を背景に、がん患者と家族の複雑なニーズを包括的に捉える臨床判断力を備え、最善のケアを実践するがん看護専門看護師の育成に期待が寄せられている。本学では、確かな看護実践を導く臨床判断力を備えたがん看護専門看護師を養成するため、2016年度より38単位のがん看護専門看護師養成課程を開講した。本研究の目的は、高度実践看護師教育課程で学ぶ大学院生の臨床判断力向上を支援するために、授業前後の自己学修用のシナリオ型 e-Learning 教材を用いたがん看護学シミュレーション教育の内容・方法を検討し、教材を試作することである。

**【予備調査1：文献レビュー】** **方法：**大学院高度実践看護師教育課程におけるシミュレーション教育の内容・方法を把握するため、PubMed、CINAHLをデータベースに、過去5年間の国外の大学院高度実践看護教育課程における e-Learning を用いたシミュレーション教育に関わる研究論文・総説等を検索した。キーワードは、CNS/APN、graduate student、simulation/e-learning、clinical judgement/critical judgement とした。**結果：**検索論文はのべ78件で、学位論文や総説等を除外した結果、対象論文は9件であった。シミュレーション教育は、APN students を対象としたもので、シミュレーターや視覚教材上の模擬患者を活用した方法により、臨床問題を扱うシナリオに基づき展開されていた。教育の枠組みとして、マネジメントのガイドラインや Clinical Judgment Model が、教育内容・評価の枠組みとして活用されていた。

**【予備調査2：がん看護専門看護師の臨床判断に関わる困難と学習ニーズに関する調査】**

**方法：**がん看護専門看護師の臨床判断に関わる困難と学習ニーズを明らかにするために、2016年10～12月に、がん看護専門看護師を対象に、約90分のグループ・インタビューを2回行った。データは、研究者らが作成した臨床判断に関わる困難と学習ニーズを尋ねるインタビューガイドを用いて収集し、録音内容を逐語録に起こし、内容分析の手法を参考に分析した。本調査は本学倫理委員会の承認を得て実施した（認証番号；16024）。**結果：**対象者は6名（女性）であった。がん看護専門看護師経験年数は平均5.9年で、3名が病棟勤務、3名が看護部直属勤務であった。臨床判断における困難については、215のコードから、【病態理解における困難】【情報収集における困難】【看護問題の焦点化における困難】【支援対象の真のニーズの明確化における困難】等のカテゴリーが得られた。学習ニーズについては、100のコードから【解剖生理・病態から看護を導く学び】【事例と解剖生理・病態・看護を繋ぐ包括的な学び】【複雑かつ難治性のがん関連症状のアセスメント・マネジメント方法】等のカテゴリーが得られた。

**【教材の試作】**予備調査結果より、予備調査結果と文献的考察に基づき、Clinical Judgment Model を基盤とする概念モデルを作成し、学習目的、学習内容・方法を検討した。**学習目的：**がん看護専門師を目指す大学院生の臨床判断力の向上を図る。**学習目標：**がん患者・家族の事例の文脈において、観察と観察された情報の推論を通じて適切なケアの決定を下すことができる。**学習内容・方法：**複雑な問題を抱えるがん患者・家族の事例を取りあげ、Noticingのための観察と、Interpretingのための情報分析からケアを導く思考過程をQ & A方式で促すこととし、事例の状態・状況を表す画像・動画を盛り込んだコンピューター支援教育（CAI）形式による e-Learning 教材を用いる。現在、教材を編集中であり、成果は2018年2月の日本がん看護学会学術集会で発表予定である。